

第 1 期計画の振り返りと第 2 期計画に向けた課題・方向性の整理

第 2 期計画の策定にあたり、文化芸術振興審議会（以下「審議会」）、庁内検討会議（以下「庁内会議」）、e モニターアンケート（以下「e モニター」）、文化芸術連合会（以下「文芸連」）で聴取した意見を基に、「第 1 期計画の振り返りと第 2 期計画に向けた課題・方向性」を整理しました。

施策目標 1 市民の暮らしと文化芸術とのつながりを深める

◆文化芸術と暮らしを結びつける取り組みの充実

【主な意見】

- ・ 高齢者や障がいを持っている方の活動を支援するなど、文化芸術と福祉など他の行政分野とのつながりを深めていく取り組みが必要と考える。（審議会）
- ・ これからは、YAMATO ART100 のような市民の力で大和の文化芸術を盛り上げていく取り組みが必要なのではないか。（庁内会議）
- ・ 芸術文化ホールを中心にして、施設間のネットワークを構築するなど、点を線で結び、面的な広がりを持たせていくような施策の検討が求められる。（庁内会議）
- ・ 市民一人ひとりが文化・芸術活動に触れる環境をつくることが重要である。（e モニター）
- ・ 市民の文化芸術活動に対して、市による活動への助成や活動の場の確保についての支援が必要である。（文芸連）

◆文化芸術団体間のネットワークの強化

【主な意見】

- ・ 同じ考えを持っている団体同士が集まり、意見交換し、勉強できる場を設けるなど、団体の横のネットワークを強化し、文化環境における空気づくりに注力していくことが重要である。（審議会）
- ・ 文化芸術団体の活動を活性化させるために、団体間、異世代間の交流やプロのアーティストとの出会いを創出する方策を検討する必要がある。（庁内会議・文芸連）

施策目標 2 すべての子どもが文化芸術に親しめる環境をつくる

◆子どもたちに文化芸術の楽しさを伝えるための取り組みの強化

【主な意見】

- ・ 未来の担い手を育てることが、文化芸術施策として一番大事なことである。小中学校を巻き込んだ芸術教育の検討が求められる。（審議会）
- ・ 子どもへの良質な芸術鑑賞・体験の機会を増やすべきと考える。（審議会・庁内会議・e モニター）
- ・ 単に発表の機会を設けるだけでなく、異なる考え方を持つ子どもたちが一緒に作品をつくりあげていくプロセスを重視した取り組みが必要と考える。（審議会・庁内会議）

施策目標3 文化芸術の振興を牽引する担い手を育てる

◆若者の才能、活力をいかす機会の充実

【主な意見】

- ・青少年の活力を活用した取り組みをもっと増やすべきではないか。(庁内会議)
- ・文化芸術の発展の原動力となる若い世代の活躍できる機会、場を提供してあげることが重要と考える。(庁内会議)

◆伝統文化の保存と継承に向けた取り組みの充実

【主な意見】

- ・伝統文化は、後継者不足が深刻な問題となっており、これに対応した方策を検討すべきである。(庁内会議)
- ・日本の伝統文化を紹介する取り組みが必要である。(審議会・eモニター・文芸連)
- ・伝統文化の継承、歴史施設の維持管理が重要である。(eモニター)

◆ボランティア等の育成機会の充実

【主な意見】

- ・市民と文化芸術を結びつけるためには、それをつなげる担い手が不可欠である。現在、美術鑑賞と文化財のボランティアスタッフが育成されているが、他のジャンルでもこうした人材を育てていく必要がある。(審議会)

◆アーティストバンクの整備

【主な意見】

- ・市内の団体や芸術家を紹介してもらえるようなものがあると、イベントの企画が円滑に行えるのではないか。(審議会)

施策目標4 大和の文化芸術の魅力を内外にアピールする

◆文化芸術拠点としてのミッションを実現するための管理運営の検討

【主な意見】

- ・新たに整備する芸術文化ホールを中心に、いかに文化芸術に親しむことのできる環境を整えていくかが重要となる。(庁内会議・文芸連)
- ・立派な音響設備等も必要だが、お客様がまた観たい、また来たいと思える中身が重要。お客様が足を運んでくれる取り組みを考え、色々なところでPRしていくことに注力すべきと考える。(審議会・eモニター)
- ・良質な文化・芸術に触れる機会、市民の文化芸術活動の場の提供を充実すべきである。(審議会・eモニター・文芸連)
- ・芸術文化ホールでは、大和ならではの文化芸術を創造する団体を育てるような事業を展開すべきと考える。(庁内会議)

◆文化芸術に関する情報発信機能の強化

【主な意見】

- ・今はインターネット社会。大和市が誰に対して、どの手法を使って発信するかを考えていくことが必要である。広報やまと以外の方法も検討してもらいたい。(審議会・庁内会議・eモニター)
- ・市が広報活動の支援を充実することが、市民の文化芸術イベントの成功の鍵を握っていると思う。(審議会・eモニター)
- ・地域を愛する気持ちを育てるために、大和の歴史を積極的にPRしていくことが重要と考える。(庁内会議)
- ・市の広報によるPRを充実してほしい。(eモニター・文芸連)
- ・メンバー確保のためのPR支援を市にお願いしたい。(文芸連)

◆文化芸術と観光との連携の推進

【主な意見】

- ・文化芸術を介した観光イベントは、まちの魅力をつくりあげる大きな財産になるため、これを推進すべきと考える。(審議会)
- ・専門家に映像のつくり方を学び、市内で映画を撮るなど、大和市の魅力を発見する事業があると良いのではないか。(審議会)

施策目標5 多文化共生社会の実現を目指し、様々な文化に親しめる環境をつくる

◆文化芸術による国際交流の促進

【主な意見】

- ・文化芸術振興条例に規定している「多文化共生のための施策」がまだ十分とはいえないため、これを推進するための方策を積極的に行うべきと考える。(審議会)
- ・多文化を理解するために、市内在住外国人の発表の機会を提供し、交流を促進していく必要がある。(庁内会議・eモニター)

◆外国籍の子どもたちに対する取り組みの充実

【主な意見】

- ・外国籍の子どもたちに着目した施策が必要ではないか。(審議会・庁内会議)
- ・日本人の子どもと外国籍の子どもがともに作品をつくる、活動できる場を設けていく必要があるのではないか。(審議会・庁内会議)